

2024年度 心の会 事業報告

自令和6年4月 1日
至令和7年3月31日

[illegible][illegible]

2024年度 あすなろ学苑 事業報告

施設基本方針

知的障害者が社会の中で自立した生活を送るために必要な、作業支援、生活支援、自立支援を行う事を目的とする。

施設年度目標

加齢に伴い重度高齢化する苑生に対し、単純反復作業である洗濯作業を通し社会参加の機会、ディーセントワークを提供する。

一方、長年実施してきた食品製造作業に誇りや技量を有している苑生に対しては、高度な食品作業を通じて福祉的就労支援を提供する。

いずれの作業においても、作業工程を細分化、レベル化する事により、一人一人の能力に応じたチャレンジができるよう作業環境を整える。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

- ・目標稼働率 95%、稼働実績97.2%
- 一昨年度に比べ、下肢、腰痛疾患による慢性疼痛による欠席、感染症による欠席が減少し、稼働目標を上回ることができた
- ・就労支援収入目標 1950万円、実績2119万円、予算対比108%
- 各製造現場で毎月季節感に応じた新商品を開発。
- 焼き菓子に関しては、新たな商品ラインナップをプロパティシエから技術指導を受け商品化し、毎年商品の質向上に努めている。
- また、イベントにおいては、客単価アップを目指し、海軍カレーバラエティーセットをメニュー開発した事が功を奏し、2日間で100万以上の収入に繋がった。職員は深夜から長時間労働となったが、綿密で無駄のない行動計画及びチームワークの良さで、効率的に業務を進め、よい結果に結びつける事ができた。
- ・利用者に支払う平均工賃月額目標は2万円、平均工賃月額実績は25395円であった。
- ・将来を見据え、就労支援会計において、工賃変動積立金61万円、設備等整備積立金59万円を積立。
- ・就労継続支援B型事業所の大目的は就労支援であり、平日は生産活動に特化した活動を実施している。
- 一方年間29日休日に開苑し、余暇活動や社会技能訓練等、生活する上でのスキル向上や潤い、楽しさを提供してきた。
- 常に苑生ファーストを主眼に置き、苑生から食べたい、やりたい、行きたいという思いを引き出し、具現化に努めた。
- (例 ①クラブ活動 主食、副菜、デザート作り、②クリスマス会 美味しい黒毛和牛のステーキをコース仕立てで楽しむ
③小旅行 大洗水族館・梨狩り・海の幸フルコースに舌鼓 ④仲間の会 当事者活動 苑内で困っている事、嬉しかったこと、自分の趣味・好きな食べ物等の発表やミーティング、グループワーク)⑤カラオケ大会 ⑥行事食(インド料理・ベトナム料理・アフタヌーンティー・沖縄料理・パンパインキング・ミステリーメニュー等 全て苑内で手作りし、ライブ感も演出) ⑦ウィークエンドかき氷パーティー(6月～9月まで毎週末 かき氷食べ放題を実施。15種類のシロップ具材を準備。選ぶ楽しみ、新しい味の発見?不思議な味の組み合わせのデンジャラスかき氷に皆で大笑いし、1週間の仕事を労う。)
- ・1名70歳を超え働き続けてくれた非常勤職員が退職した以外は離職はなく、職員の定着率は高く維持できている。
- ・苑全体として多能工を推進。配属される部門業務の他、洗濯、販売、ケース記録は支援職員全員がマストの業務として、身に着けている為、職員の突発休等が発生した際もスムーズにトレードができています。
- また職員は、子育て中の主婦層が多いため、お互い様に助け合う文化、ライフワークバランスの向上をリーダーが牽引し、苑全体で共有している。

・障害者に対する人権侵害が年々増加している為、職員に対する教育を強化すると共に、外部有識者に定期的に査察に来て頂く事により、より一層施設の透明化を進めている。有識者の皆様より苑生を大切にした適切な支援ができており、施設運営に際しても様々な工夫なされている旨講評を頂いている。

【全体統括】

就労支援収入、施設稼働率共に、目標を達成する事ができた。
また、食材、消耗品、資材の購入に際しては、底値購入を意識しながら経費削減と適切な消費量に収める事ができた。
特に食材費が高騰している為、食材配送業者からの発注は生鮮食品のみに留め、業務スーパーに事前発注し、月1回まとめて仕入れる方式を採用する事で、苑生に提供する食材の質や量の向上に寄与する事ができた。

一方で、非常勤職員1名の増員を図りたかったが、勤務時間、業務内容(本来はオールマイティに業務に従事して下さる方を希望していたが、求職がないため、洗濯、販売のみ、朝のみ、土日のみ等のスポット採用)を限定した求人も幾度となく実施したが、応募がごく数件しかなく採用に結びつける事ができなかった。2025年4月より処遇改善手当の分配方法が変更となり、非常勤職員の時給が大幅に向上した為、次年度中に実現したい。

年間数値目標と実績(利用率)

[illegible]

2024年度 さくらの里 事業報告

施設基本方針													
法人理念「あきらめない介護」 通所課理念「自立生活支援を目指し、人生を楽しんでいただく」													
施設年度目標													
稼働率90%を目指す													
重点項目に対する実績報告(各事業ごと)													
【通所】													
目標稼働率90.0% 実績稼働率86.4% 感染予防のため中止していたカラオケを再開する。活気が出て楽しんでもらえた。 感染予防のため一人一テーブルだったが、席を向かえ合わせ4人席、6人席の配置にした。 居宅支援事業所への営業（訪問）再開。 昼食の提供の方法の検討等。土曜日の営業を中止。 保険外行事の介護付きバス旅行の再開の検討。													
【居宅】													
目標稼働率 96% 実績稼働率 99% 令和6年職員一人の退職に伴い、他の職員に割り振り担当してきました。 同年、ケアマネの受入れ件数上限が上がり、各ケアマネの業務は増加しています。 令和6年4月から令和7年3月までの新規受け入れ件数は44名、中止者47名、再開3名でした。 その他、サービスには繋がらなかった訪問相談件数も10件以上ありました。 今後も包括、病院との良好な関係が維持できるようにします。 今年度開催できなかった地域を対象とした介護予防教室を令和7年7月に再開する予定です。													
【統括】													
通所：コロナウィルスの感染予防で、出来なくなっていたサービスを再開し、活気を取り戻し、お客様の集客につなげるよう努める。土曜日の営業中止。デイサービスの厨房を閉鎖、山科特養食事を運搬する。デイ内に事務員を置かず、業務の改善を図るなど、大きく体制変更することで、経営を立て直すべく取り組む。すべて軌道に乗るよう全力を尽くす。													
ケアマネ 各部署との連携を重視し、紹介率のアップを目指します。 業務量が増加する中、取り組んでくれる各職員への感謝、疲弊に留意し、稼働率95%以上維持できるよう目指していきます。													

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
デイ	R5 実績	86.3%	85.2%	82.4%	80.4%	70.4%	81.9%	85.4%	84.5%	85.1%	85.6%	84.7%	82.1%	82.8%
	R6 目標	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
	R6 実績	82.1%	83.8%	85.2%	86.9%	85.8%	86.9%	86.1%	88.3%	90.5%	88.5%	89.0%	83.8%	86.4%
ケアマネ	R5 実績	98.7%	97.4%	94.9%	94.3%	98.7%	94.3%	93.7%	96.2%	96.8%	91.1%	92.4%	91.1%	95.0%
	R6 目標	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
	R6 実績	98.7%	97.4%	95.5%	111.1%	111.1%	110.4%	109.6%	105.2%	104.4%	86.7%	81.6%	81.6%	99.5%

2024年度 さくらの里山科 事業報告

施設基本方針

あきらめない福祉
ご入居者様の「家」になる
ユニットケアの推進
伴侶動物福祉の推進

施設年度目標

- ①入居者 1人1人に合わせた生活を作る
- ②感染予防生活体制の構築
- ③生きる喜びの追求
- ④行事の復活

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

＜特養＞

・稼働率 目標 95% 実績 95.2%

6月～12月までは稼働率は平均96～97%を達成していましたが、冬になりインフルエンザの感染症が発症し、入院が月平均4名のところ1月、2月は9名の入院が発生してしまいました。

＜短期＞

・稼働率 目標 85% 実績 83%

5月～7月においては、家族の用事がなくなった等で、利用キャンセルが重なり稼働率が低下してしまった。

月末月始の利用者が少ない傾向になるため、次年度はこの期間を利用いただいてもらえるよう、月末月始のイベントを企画していく予定です。

＜全体総括＞

・コロナ禍により、ユニット内への家族の立ち入りを中止しておりましたが、事前予約ではありますが、ユニットの居室内での面会の再開となり、入居者、家族との外出も再開し、入居者の外出機会も戻りつつあります。

全体的なイベントは敬老会、初詣なども行いました。

ジョーも、外出やおやつのお取り寄せなどのイベントも再開しており、利用者の目的の1つとして稼働率の向上へつながっています。

新たにインドネシアより7月～4人の仲間が入りました。夜勤も出来る状態まで育てております。

年間数値目標と実績(利用率)

[illegible]

2024年度 さくらの家二番館 事業報告

施設基本方針

法人理念「あきらめない福祉と介護」
さくらの家理念「充実した生活の場となる」

施設年度目標

- ①安定した入居率を保つ
- ②新たな感染症に対しての体制と対策
- ③入居者様の充実した生活の追究

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

<2階>

入居3名 退去3名 入院 1名
3月末時点入居率100% 3月入退去1名あり
感染症 7月末～8月上旬 2月にコロナ感染症が流行する

<3階>

入居2名 退去2名 入院1名
3月末時点入居率100%
12月末コロナ感染症流行する
2月にインフルエンザが流行する

<全体統括>

目標99.0% 実績 99.4%

2階、3階共にコロナ感染症がまん延してしまいました。感染による入院者や重症化するかたはおりませんでした。特に3階は年末年始という事もありシフトの維持に苦戦を致しました。

次年度に向けて感染対策の強化を行ってまいりたいと考えております。

6年度は入院者が1名（そのまま退去）のみで済んだ事も入居率の維持につながったと考えております。今後も入院にならないように早期発見、早期対処を心がけて参ります。

行事に関して少しずつコロナ前の物も取り入れてきました。福祉の集い（さくらの家全体）地域の会館で催し物を見ることができました。小規模ですが1月には4年ぶりの餅つき（さくらの家全体）川崎大師へ外出行事を実施致しました。今後も行っていくとともに、新たな取り組みやコロナ禍以後まだ行えていない行事も行っていきたいと考えております。

成建福祉財団の補助金が3回目で受けられることになり2階・3階のキッチンを全額補助金にて改装しております。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
グループホーム	R5 実績	100.0%	100.0%	99.4%	97.0%	99.8%	100.2%	98.2%	98.5%	94.4%	99.3%	100.0%	98.9%	98.8%
	R6 目標	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%
	R6 実績	98.5%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%	97.2%	100.0%	99.6%	100.0%	100.0%	100.0%	98.0%	99.4%

2024年度 さくらの家三番館 事業報告

施設基本方針

法人理念「あきらめない福祉と介護」
さくらの家理念「充実した生活の場となる」

施設年度目標

- ①安定した入居率を保つ
- ②新たなに感染症に対しての体制と対策
- ③入居者様の充実した生活の追究

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

三番館 1 F

退居1名 入居1名 入院なし

12月下旬 インフルエンザ感染 1名・3月初旬～下旬にかけコロナウイルスが蔓延

三番館 2F 退去・入居・入院 なし

感染症 なし

三番館総括	目標	99%	実績	99.7%
-------	----	-----	----	-------

12月中旬に急変があり年末年始と重なってしまった事や、ご家族の都合で新入居者様受け入れがスムーズにできず

12月・1月の稼働率が低下してしまいました

感染症については、インフルエンザ感染1名のみで蔓延せず、感染対策が適時行われたと考えますが自室にて過ごせる方が感染した為蔓延せずにすんだと思います。コロナウイルスが蔓延してしまった要因として自室で過ごす事が困難な方が多かったのが原因と考えられますが、日々日常的に感染対策は継続し蔓延防止に努めていきます

7月にインドネシアから2名の技能実習生さんを迎え、1Fと2Fに1名ずつ配属しました

12月末まで夜勤以外の勤務ができるよう各ユニットの管理者で目標を立て技能生さんが不安なく安心して働く事ができるように定期的な面談や世話人さんとの情報共有を重ねてきました

12月には日勤帯の勤務は問題なくこなせるようになり、入居者様とのコミュニケーションも進んで行い

日本の唱歌や入居者様が好きな歌も一緒に歌え、ピアノも練習し入居者様と一緒に弾く事もあります

入居者様が笑顔になるレクレーションも考え提供できるようになりました

新年度に向け2月・3月で夜勤勤務の指導を行い、4月より全ての勤務が独り立ちできる目標を持ち

進めてきました。2名の技能生さんはとても優秀で夜勤勤務も問題なく行えています

新年度も面談を継続し、2名がやってみたいことが実現できるように支えて行きたいと思っています

合同行事

11月 地域行事に参加（福祉の集い）技能生さんも添乗・1月 初詣（川崎大師）技能生さんも添乗

1月 もちつき・2月 いちご狩り 技能生さんも添乗

体制變更

12月末 管理者1名 退職 求人はせず、三番館の職員で調整

2月 入居者様の区分検討 5名 区分変更実施

介護1→介護3・介護2→介護3・介護2→介護4・介護2→介護5・介護3→介護4

年間数値目標と実績(利用率)

[illegible]

2024年度 相談室あすなろ 事業報告

施設基本方針

1. 丁寧確実そして一貫性のある対応を心がけます
2. 利用される方々の必要性に応じた相談支援を心がけます
3. ライフステージに即した継続性のある支援を心がけます

施設年度目標

1. 複数事業所による協働モデルの事業開始
 2. 地域生活支援拠点事業の受託
- 上記2点を含めて、より地域での拠点機能としての役割を果たす。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

1. 基幹相談支援センター等機能強化事業（横須賀市委託事業）
（重点項目） ①支援学校卒業生及び児童養護施設退所時の引継ぎ強化
②相談支援専門員人材育成のためのストレングスモデルを用いたGSVマニュアル作成し、毎月開催実施
③圏域ナビゲーションと連携し研修実施
2. 障害者相談サポートセンター（横須賀市委託事業）
（重点項目） 新規事業①地域生活支援拠点事業開始
市障害福祉計画に基づき、複数事業所による協働モデル事業実施のためも含め、
地域生活支援拠点となる
新規事業②複数事業所による協働モデル事業を6月から開始し、幹事役を担う
令和6年3月末時点で、横須賀市内13事業所が協定を締結。
③他職種の支援者の協力のもと、事例研究会を月1回実施
当所のケースについての事例検討を実施
④当事者グループ自主活動支援
当事者グループ「ぱっぴー」月3回実施（当事者会、家族会）
⑤専門相談派遣
地域の相談支援事業所3ヶ所から月1～4回、当所への派遣依頼。
⑥ファシリテーター研修
委託相談支援事業所向けに相模原市社会福祉事業団北澤氏を招いて研修実施
3. 地域移行支援・地域定着支援（障害+B34:P52者総合支援法指定事業）
今年度新規契約なし（基幹相談支援センターからの依頼なし）
一昨年度、地域移行したケースについては、支援困難状態が続いている
4. 特定相談支援事業（障害者総合支援法指定事業）・障害児相談支援事業（児童福祉法指定事業）
サービス等利用計画書作成者契約者数 128名
計画作成件数及びモニタリング件数は、下記表の通り。
5. 相談員研鑽
強度行動障害予防的支援研修：自閉傾向にある児童への適切な支援について
横須賀市保健所主催：自殺対策研修
横須賀市子ども家庭地域対策ネットワーク会議構成機関育児支援家庭訪問事業従事者合同研修会
横須賀市障害福祉課主催：障害者虐待防止研修会
圏域ナビゲーション主催：アセスメント研修
6. 講演・講師
神奈川県相談支援専門員 現任者研修 副統括
神奈川県特別支援学校進路指導連絡協議会 知的障害部会 県域地区会 講師
強度行動障害実践研修 講師

下記相談件数のデータは、相談の総数を表しています。令和5年10月からカウント方法が変更したために数が減少しています。

年間数値目標と実績(件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
ケアプラン	R5 実績	4	4	5	7	1	6	8	2	2	3	4	4	97.5
	R6 目標													#DIV/0!
	R6 実績	7.0	9.0	7.0	11.0	9.0	5.0	7.0	4.0	3.0	2.0	4.0	7.0	98.1
モニタリング	R5 実績	9	2	6	7	5	20	18	19	18	9	11	16	98.8
	R6 目標													#DIV/0!
	R6 実績	14.0	10.0	13.0	6.0	13.0	18.0	7.0	13.0	10.0	10.0	14.0	10.0	97.2
来所相談	R5 実績	380	477	513	481	585	434	405	348	375	376	340	326	70.4
	R6 目標													#DIV/0!
	R6 実績	389.0	439.0	381.0	394.0	403.0	412.0	476.0	417.0	404.0	405.0	415.0	437.0	78.1

2024年度 まちの診療所つるがおか 事業報告

施設基本方針

地域をささえる包括医療ケアを行う街の診療所になる

施設年度目標

一ヶ月当たり 外来500件
訪問診療360件
居宅療養管理指導180件

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

外来患者数は目標の8割、訪問診療数は目標の6割、居宅療養管理指導も目標の6割にとどまりました。従来、まちの診療所つるがおかの前身である三輪医院は、横須賀における往診のパイオニアとして有名でしたが、近年、訪問診療を専門とする診療所が増え、病院からの患者の紹介が減ったことが、患者減の理由だと推測しています。

6年度には若い医師も加わり、7年度からは診療所の体制が大きく変わります。これまでベテラン医師が築いてきた地域との信頼関係と、若い医師のフットワークを融合させ、地域からも病院からも信頼される診療所となって、患者数増を目指していきます。

年間数値目標と実績(件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
外来患者	R5 実績	394	461	451	445	454	430	452	426	441	430	453	441	439.8
	R6 目標	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500.0
	R6 実績	380	353	358	416	435	391	442	378	405	410	401	379	395.7
訪問患者	R5 実績	252	245	247	248	244	244	245	226	215	221	217	231	236.3
	R6 目標	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360.0
	R6 実績	227	203	235	231	228	233	230	228	224	220	215	276	229.2
居宅療養管理指導	R5 実績	139	137	141	141	133	130	140	128	122	119	123	127	131.7
	R6 目標	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180.0
	R6 実績	122	121	118	123	114	109	108	112	112	106	102	105	112.7

2024年度 あすなろの家 事業報告

施設基本方針

知的障がい者が家庭に近い環境の中で快適かつ自立した生活を送るための支援を行う。

施設年度目標

- ①入居者の高齢化に対処するための第3あすなろの家を増設を行う。
- ②全館で高齢化した際に第3あすなおろの家への転居できる体制とする。
- ③法人内で最後まで過ごせるケア体制の構築を行う。山科への転居の推奨。

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

・稼働率 目標 95% 実績 95.5% 病気による入院や終末期の支援で稼働率低下したが、目標としては達成できた。

- ①利用者様の高齢化に伴い、従来の体制では支援が困難に対応する為の支援体制作りを行いました。
24時間365日体制とし、土日祝日の日中の支援及び第3あすなろの家の夜勤体制など基本体制の構築する事ができました。
デイサービスやケアマネの活用による高齢系サービスとの併用で入浴や福祉用具の支援の取り入れと
まちの診療所や汐入メンタルクリニックへの往診の切り替えを行い、受診の付添い支援の限界を解消する
事が出来ました。
身元引受人がいらない方の対策として、成年後見人・保佐人の申し立ての支援を行い、3名の後見人や保佐人
をつける事を行いました。
- ②第3あすなろの家の退去者が出たあと、第1（自立）⇒第3（介助支援型）への移動、
第8（月～木）⇒第1（365日型）への移動もスムーズに行う事ができ、転居できる体制として行えた。
- ③介護度5（脳梗塞）になり、さくらの里山科への転居事例ができた。
身元引受（後見人）が不在もあり、市長申し立てに7～8か月かかり、転居がスムーズに行う事ができなかった。
この反省を生かし、他の方、後見人申し立てを進めている。

看取り支援、突然のガン末期となり、まちの診療所やケアマネの福祉用具などの活用で看取りを行う事もできた。

【全体統括】

利用者様の「あすなろの家ですっと過ごしたい」の思いに対しての高齢化支援の体制の基盤を作ることができました。重度介護状態になった時には、特養への転居もでき、法人内のサービスで生涯支援を受けられる事の安心が得られたと思います。

運営面では、編成による整備費の費用に加えて、入居者様が決っていたが、後見人不在による退去困難が生じて収支の安定化が遅れてしまいました。

職員配置は、整いましたが世話人が介護支援を行うことへの抵抗感や不安、高齢期の支援を行うことへの職員の理解や知識面の不足など課題は沢山あります。

看取りの介護支援を体験する事で、長年住み慣れた方への終末期の支援を行うことで、職員の気持ちの変化もで良い経験となった。

今後は、親亡き後の利用者様が増加した際と高齢期の支援で、支援の量が格段に増加して行くことが予想されるなか、限られた人員体制の中で、創意工夫が求められます。その為、次年度には、ICTの導入などを進め、業務効率を上げる取り組みをしていきたいと思ひます。

年間数値目標と実績(利用率)

[illegible]

2024年度 法人事務局 事業報告

施設基本方針	
法人各事業所のサポート、現場職員の負担軽減	
施設年度目標	
法人全体経費、事務局経費の削減 法人全体に関わる業務の遂行 補助金・助成金の獲得 職員採用力の強化	
重点項目に対する実績報告(各事業ごと)	
経費削減 事務局の職員配置の適正化 あすなろの家で使用する液体洗剤の購入業者を変更、購入費用年間約10万円削減 使い捨て手袋（プラスチック）の購入価格交渉、年間約25万円削減 法人全体業務 衛生管理責任者、安全運転管理責任者、安全運転管理副責任者、公正採用責任者、コンプライアンス責任者 女性活用責任者の登録 各部署の情報共有のためクラウド型サーバーを運用 エレベーター点検 全建物一括してSECに委託 防災設備点検 全建物一括して高千穂防災に委託 各介護保険事業の法改正等に合わせた運営規定、重要事項説明書の更新 各種加算等の申請・実績報告、各事業の指定更新申請 補助金・助成金の獲得 公益財団法人JKA 軽車両助成 1,300,000円 さくらの里山科 成建福祉財団 キッチン改修助成 2,600,000円 さくらの家二番館 共同募金 家庭用エアコン 第3あすなろの家 職員採用力強化 無料掲載サイト ジョブメドレー、コメディカルドットコム、エンゲージ、みんなの介護、介護ジョブ 計5サイト利用 有料掲載サイト インディード、求人ボックスを利用 ホームページでの募集、ブログでの呼びかけ 求人チラシのポスティング さくらの家で1回、さくらの里山科で2回実施 寄付募集 寄付金 63件 計1,811,383円 寄付 マスク 66件 計9,410枚以上 使い捨て手袋 56件 計11,450枚以上	

年間数値目標と実績(件数)

[illegible]